

自由な校風という教育実践

—— 京都府立鴨沂高等学校の学校行事「仰げば尊し」から ——

津 田 壮 章

京都大学大学院 人間・環境学研究科 共生人間学専攻

〒 606-8501 京都市左京区吉田二本松町

要旨 本稿は、京都府立鴨沂高等学校の学校行事「仰げば尊し」を主な題材に、「自由な校風」という教育実践の意義と限界を考察するものである。同校では、戦後直後から表現の自由が重視されていた。当初は仮装行列であった「仰げば尊し」は、1960年代にデモンストレーションとなる。1980年代には教育実践としても位置づけられているが、2010年代の校舎改築及び校風改革によって廃止された。しかし、主権者教育が推進される現代においてこそ、自由で自立した市民を育てる校風として再評価できるのではないだろうか。

1 は じ め に

京都府立鴨沂高等学校（以下、鴨沂高校とする）全日制に「仰げば尊し」（以下、「仰げば」とする）という行事があった。初期には運動会で担任を山車に乗せた仮装行列であったが、1960年代から街頭でパレードをおこなう行事として継続してきた。こうした行事を代表とする「自由な校風」を支える日常的な仕組みとして、「銀座通り」¹⁾や「アッセンブリー」²⁾（以下、「A」とする）、生徒会ではなく生徒自治会³⁾としての組織が整えられていた。

本稿の目的は、戦後高校教育において鴨沂高校の「自由な校風」が持っていた意義と限界を、「仰げば」という学校行事を主な題材に、教育実践の視点から考察することにある。このため、1949年から1973年まで発行されていた学内新聞『鴨沂新聞』⁴⁾及び、1978年から1年に1回発行されていた『OUR SCHOOL OHKI』（以下、『OSO』とする）等の学内資料を分析対象とする。『OSO』発刊以前に学園誌は無く、創刊時に生徒部員であった大江周道によると、教員の「実践はほとんど記録されず、従って鴨沂高校には“文化の継承発展”という視点が欠落しているのではないか」⁵⁾という問題意識から発刊されたものであった。

「自由な校風」や「仰げば」を近年まで継続していた鴨沂高校は、全国の高校の中でも特異な存在であった。しかし、教育と自由を題材とする研究の多くは教員の教授の自由、国家の統制からの自由⁶⁾を対象としており、鴨沂高校の教育実践が取り上げられたことは管見の限り無い。高校生に関する研究には、厳しい校則を対象とするものがある。全国213校の校則を分析した太田周二郎は、「画一的な服装、髪型、行動の統一美に生徒らしさを認め、教育のゆきとどいた学校との評価を定める傾向が強くなる。『非行防止のために』を共通の御旗に、学校が生徒の私生活における行動を規制することを期待し、学校はそれに依拠していく。学校にとって、このような規制の実施は比較的容易で、短時間で可能なため、学校の評価を高めるのにはもっとも好都合」⁷⁾として、学校が形式面で管理を強化していくメカニズムを述べている。こうした先行研究では、学校間競争の中で地域や保護者から評価を得るために厳しい校則を制定し、高校生のみならず教員も管理体制に組み込まれていく事例が検討されている。では、教員や学校は、高校生を管理統制する方向へ進むことしかできないのであろうか。西原博史は、「日本の法秩序でも、子どもには自分を守るための権利はほとんど保障されていない（中略）権利がどこまで実質的に保

障されるかは、実際には、子どもを取り巻く多くの大人たちの意識の持ちよう、特に教師のあり方にかかなり依存する」⁸⁾と述べている。実際に、高校生の自由のあり方には学校や地域によって大きな隔たりがあった。例えば、1960年代末から1970年代初頭にかけて発生した「高校紛争」を研究した小林哲夫は、高校の所在地や校長の思想によって、認められていた表現の自由の程度や処分者数、処分の厳しさ等に大きな差⁹⁾があったとしている。

鴨沂高校では戦後の教育改革以後、2010年代の校風改革まで60年以上の間、「自由な校風」を特色としてきた。そこには、教員の教育実践としての性質もあったのではないだろうか。それを検討するために、「デモクラシーのためのアーキテクチャ」という概念を参照したい。アーキテクチャとは、アメリカの憲法学者ローレンス・レッシング(Lawrence Lessig)の定義を再構成した成原慧によると、「何らかの主体の行為を制約し、または可能にする物理的・技術的構造」¹⁰⁾とされている。レッシングは、喫煙の規制を例にしながら、人の行為を制約するものとして、法、社会の規範、市場、アーキテクチャの4点¹¹⁾を挙げている。アーキテクチャは、通路の設置物やファーストフード店における「食事後も居続ける必要がなく、居続けたいと思わないような構造」¹²⁾としての椅子や装飾の設計等に使用されることが多いものの、行為の制約だけでなく、行為を可能にする構造でもある。特に、近年では、デモクラシーへの応用を検討する研究がみられる。「デモクラシーのためのアーキテクチャ」の成立条件を検討した田村哲樹は、その事例としてストリートや公園を「公共フォーラム」と位置づけ、スピーチやデモ等と接する機会があることから、「『思いがけない発見のためのアーキテクチャ』になり得る」¹³⁾としている。ただし、「『デモクラシーのためのアーキテクチャ』がその設計後もそれとして継続的に作用するという保証はない。その作用の持続のためには、恒常的な点検・モニタリングが必要になると考えられる。そうだとすれば、その手段としてのデモクラシーが有用」¹⁴⁾と述べている。船山万里子は、「教育活動にはアーキテクチャが数多く埋め込まれている」¹⁵⁾としたうえで、教育におけるアーキテクチャが民

主的になりうる条件設定を提起している。ここでは教室内の机の配置が事例として挙げられているのみだが、公職選挙法改正(2016年6月19日施行)による選挙権年齢引下げに伴って、主権者教育¹⁶⁾の教育実践に関する研究が増加¹⁷⁾しており、主権者教育副教材では模擬議会や模擬選挙といった実践紹介が掲載¹⁸⁾される等、教育における「デモクラシーのためのアーキテクチャ」が推進されつつある。

鴨沂高校の「仰げば」を代表例とする「自由な校風」は、入学すれば個人の意思に関わらず影響を受け、そこから「思いがけない発見」をする可能性があるため、教育における「デモクラシーのためのアーキテクチャ」の一種といえよう。であるならば、それを継続的に作用させるために、高校生・教員が学内で日常的に議論を交わし、自由を行使していく、「仰げば」をめぐるデモクラシーが必要である。それらを保障するシステムとして、「A」「銀座通り」という日常的な「デモクラシーのためのアーキテクチャ」が複合的に存在したといえるのではないだろうか。

2 新生高等学校としての鴨沂高校と「仰げば」

戦後、高校三原則¹⁹⁾導入等の教育改革がおこなわれた。前身の京都府立第一高等女学校及び、1948年10月まで存在した女学校としての鴨沂高校は、京都府立京都第一中学校(以下、京一中とする)や京都府立洛北高等学校(以下、洛北高校とする)等と校舎を共有する時代を経て、1948年10月に新制度としての鴨沂高校²⁰⁾となる。講和前後には逆コースの波が教育分野にも及んだが、鴨沂高校では「自由な校風」が大幅に制限されることはなかった。その中でも重視されていたのが表現の自由であった。鴨沂高校創設初期に教員であった田代善信は、「『事実に基づく』事と、『他人を中傷する事を目的としない』事を条件に、すべて許可した。当時これをプレス・コードと呼び、鴨沂新聞・掲示・ビラ・発言等に適用した。(中略)破防法反対・日米安保条約締結反対決議など幅広い掲示が、クラス・クラブ・学年・自治会の

決議として出された。殆ど一年中絶えることなく、校長室や職員室の一带に貼られ²¹⁾ ていたとして、「銀座通り」という場の存在が「自由な校風」を支えるものであったとする。また、ここでの表現は、教育と連動するものと位置付けられていた。元教員の鈴木集蔵は、掲示される公開質問状について、「品位、品性を高めようとしていた。誤字は必ず訂正し、『今日の質問状は水準が高いねえ』『今日のは品が無いねえ』などと授業で言ったりして、挑発してよいものにしようとしていた²²⁾」と述べている。「銀座通り」はこの時点で「デモクラシーのためのアーキテクチャ」として機能していたと同時に、教員の教育実践の場でもあったといえよう。当時、鴨沂高校の学力水準は全国的にも高く、新制高校として初の卒業生である1949年卒業生の京都大学合格者数は54人²³⁾で、その後は減少傾向にありながらも1955年度に現役8人、浪人23人²⁴⁾、1966年度は現役6人、浪人15人²⁵⁾と高い数字を維持しており、過去の京都大学進学実績を「エリート性の象徴²⁶⁾」、「進学名門校²⁷⁾」とする卒業生も一定数存在する。一方で、1952年卒の山本達哉は、「ホームルームでのクラス中心の話し合いの場に、一部の生徒の乱入、アジ演説などや、校舎の屋根の上でのインターを歌いながらの赤旗振り、登校時の署名やカンパの要求など、本当の意味の「自由」ではなく、放任、無秩序の時代であった²⁸⁾」として、1950年前後の状況が回想で語られがちな理想的な姿だけではなかったと指摘している。

1952年8月31日には、学内で火炎瓶を製造したとしてクラブBOX街が警察に捜査²⁹⁾され、複数名が逮捕、起訴³⁰⁾されている。この他にも校舎の破壊行為³¹⁾や暴力事件³²⁾、カンニングの流行³³⁾、図書館の書籍紛失³⁴⁾、「手紙による脅迫、BOXでの喫煙・飲酒³⁵⁾」といった非行が問題視されている。社会科教員の有馬貞一は『鴨沂新聞』への寄稿で、「生徒諸君が心なく設備を破壊していることはなんとしても改めなければならない。校費の修繕費が相当の額に上っていることを知るべき³⁶⁾」と述べている。「A」についても同様で、1956年から「出席カード」³⁷⁾が配られ始め、その後も「出席カードを目的とする者が減らない。そればかりでなく、私語や雑談などで、一層騒がしく、講演

を聞き取るのが困難³⁸⁾」とされ、「自由の基磐となるべき自主性や、主体性を放棄し、生徒会の問題には何ら関心を示さず、全く意思表示をしない人達³⁹⁾」を批判する論説が掲載されている。こうした時代の中で始まった「仰げば」は、当初、運動会行事であった。1947年に京一中⁴⁰⁾が、1948年には洛北高校⁴¹⁾がおこなっていた「仰げば」を、男女共学となった鴨沂高校が引き継ぐ形であった。1949年の「仰げば」の様子は『鴨沂新聞』に掲載されている。

各組入り乱れての大混乱三年生も高校生活最後の運動会だとあつて元氣一杯ワッショイワッショイと走り廻る、男に負けずと走り廻る女生徒の姿も見える、上に乗せられている先生方こそいゝ迷惑、落ちまいとして死物狂いで棒などにつかまっておられる。奇想を凝らした趣向に会場は一斉にドッと沸く、爆笑の渦である、遂には校長先生までがハシゴを四つに高く組んだ上にのせられて、四方を見下してられる？その下では裸になった猛者が輪を作り威勢のよい音頭と共に踊り廻る⁴²⁾

1950年代の「仰げば」は、山車を「体育祭当日饗宴場⁴³⁾へ運び、担任をのせて一周して帰校する。山車は、自分たちの担任の特徴やニックネームを具象化したもの⁴⁴⁾」であり、この時点では仮装行列の類であった。こういった仮装行列は他地域にも事例がある。大分県立大分上野丘高等学校（以下、上野丘高校とする）では、「第一回運動会では、ボロを集めての『乞食の大名行列』と『黒ンボ』が有名で、後に行われたものでは、『きけわだつみの声』『トロイの木馬』など⁴⁵⁾」があったとされる。栃木県立大田原高等学校では、1949年の運動会で仮装行列がおこなわれたが、「準備に費やされる時間と経費、事後に費やされる労力と神経とは大変なもの⁴⁶⁾」という理由で1954年に廃止されている。

鴨沂高校においても、1957年に三年担任会議が「協力できない。作り上げて乗らない。これに変わる新しい催しを考えだしてほしい旨の申しあわせを発表⁴⁷⁾」している。理由はアイデアのマンネリ化、高い費用、担任が乗ることの危険性の3点⁴⁸⁾

であったが、最終的に「アイデアや危険性の点で先生と生徒が協力して作った」⁴⁹⁾形で実行している。1961年には、幹部会から「担任の乗らない仰げばに変わるもの」⁵⁰⁾として市中パレード案が出され、元教員の坂本篤代によると、『「仰げば尊し」のダシが初めて市内パレードを行った」⁵¹⁾とされている。1962年には、それまで使用していた饗宴場から紫野グラウンド（京都学芸大学跡地）に会場が変更される。これに伴い、「本校—寺町通り—今出川通り—相国寺—烏丸通り—下総町—会場のコース」⁵²⁾に変更された。会場変更2年後の1964年には「仰げば」の中止提案が生徒部より出されるが、「仰げば実行委員会を中心とする生徒が数度にわたる生徒部交渉」⁵³⁾をおこない、決行されている。1964年度の卒業式答辞には、「本来の仰げばの意義は認めるが現在では非常にレベルが低下してきているし、又交通量も増え危険であるというものでした」⁵⁴⁾とある。このように、1960年前後の「仰げば」は、教員が中止を求める中で、高校生側が決行を勝ち取ってきた行事であった。

1965年の「仰げば」からクラステーマをまとめ、「表1」としている。1965年の「仰げば」は、「戦争はいやだ」「世界に平和を」等のプラカードを掲げて街中を行進する写真⁵⁵⁾が『鴨沂新聞』に掲載されており、担任を担ぐ仮装行列から市民に向けたデモンストレーションへと変容していた。1960年代後半には戦争を扱うクラスが多く、それ以外

のクラスも、ほとんどが社会問題や政治的テーマを扱っている。グラウンドの変更や危険性を理由に担任が山車に乗ることを拒否したこと等、外的要因が大きいものの、テーマに関するクラスでの議論や山車作りといったプロセスを含め、この時期に「デモクラシーのためのアーキテクチャ」としての「仰げば」が形作られたといえよう。

仮装行列を廃止した高校と鴨沂高校では、表現の自由に関する指導に違いがみられる。上野丘高校では、「集会があると、生徒指導の担当教師を中心に各校が連絡を取り合って生徒の自重を促すため指導に出かけるなどの対応をした」⁵⁶⁾というように、政治的活動の規制を指導の基本としていた。鴨沂高校は安保闘争等の活動についても自由であった。60年安保の際の在籍者には、「安保阻止実行委員長として約八百名ほどの生徒を組織して街中でフランスデモを展開した。もちろん校長先生には大変なお叱りを受けたが、先生方は味方だった」⁵⁷⁾、「デモにも参加したが、先生方からも親からも『やめなさい』という言葉は耳にしなかった」⁵⁸⁾といった回想がある。表現の自由に対するこうした学校側の姿勢が、「仰げば」で政治的なテーマが扱われた際に、抑圧されずに継続できた要因の一つであろう。

表1 「仰げば尊し」年度別テーマ一覧及び関連年表

年	テーマ（注1）	関連年表
1949		新生高校としての鴨沂高校運動会で「仰げば尊し」開催。新生高校としての鴨沂高校における『鴨沂新聞』創刊
1952		運動会を体育祭に改称。会場は饗宴場。
1957		三年担任会議が「仰げば」に「協力できない、作り上げても乗らない。これに変わる新しい催しを考えだしてほしい旨の申しあわせ」を発表。
1961		市中パレード開始（鴨沂から河原町を通り市役所の南側広場で小休憩後、寺町を通り饗宴場へ）
1962		体育祭会場が紫野グラウンドに変更。パレードコース変更（鴨沂高校出発—寺町通—今出川通—相国寺—烏丸通—下総町—紫野グラウンド着）

年	テーマ（注1）	関連年表
1964	統一テーマ「鎖を切れ」	生徒部から「仰げば」中止提案。仰げば実行委員会と生徒部の交渉により中止提案撤回。紫野グラウンド正式使用開始（注2）
1965	期待される人間像/平和アピール/教科書問題/戦争がいっぱい/サルまね JAPAN/漫画/夢の島/先生バンザイ!/差別問題/戦争反対/歪められた想い/ガン/シュバイツァー	
1966		
1967	理想的青年/何かが狂っている/健康保険問題/災害について/コラサⅡ世号/トッポジョのボタン戦争/現代っ子の悲劇/現代の思想/若者よ立ちあがれ/値上げ一般の問題について/黒人暴動/僕らに戦争はいらない/交通問題	
1968	明日のために対話による冒険/平和/学生の叫び/報道に真実性を/誰がために政治はある/主体性の喪失/自由と平和/異常放射能/人間性を主体とした教育闘争/公害/教育の軍国主義化反対/殺すな!(ベトナム人を殺すな! (ママ))	
1969	交通災害/科学と人間/あなたは白骨化しつつある!/対話/死(その偶然性と挑発性)/歪められた高校教育/人類の危機	
1970	俺たちに明日はない/あ〜あ/たざり↓SEETHING/アシュラ/ヒューマンルネッサンス《人間の脱皮》/人間埋葬の行進/鈴木先生/仰げば反対/歩行者天国/メルヘンの世界	
1971	魂の叫びを!/人間性の回復/祭り/CRY/やればできるさ/正義の味方/たんたんたぬきの金時計/戦争反対/戦争…それはそれは、あんまりやないか!	
1972	公害・校害そして郊外へ/愛/愛こそすべて/祈り/人間性回復/赤ずきんちゃん/先生の花嫁/青い鳥/ニイハオ	
1973	タイムトラベラー/地震/チャップリン——今の社会を見直そう——/我教師/ネッシー/ノアの箱舟——新しい世界へ!——/天地創造/ツチノコ大行進——自然を取り戻そう——/ユックリズム	『鴨沂新聞』休刊
1974	火の鳥/飛行機/日本人と諸々の問題のかかわりあい/金権選挙/かもめのジョナサン/青春バイキング/食糧問題/嗚呼、古きよき時代/国民怒りの鉄拳〜角栄危機一発〜	
1975	童話の世界/市電を残そう/原爆反対/純粹なる子供の世界から/鴨沂の自由/真の先生と生徒/青い地球は誰のもの/古典と伝統をひきつごう/のんびりゆこうよ	鴨沂高校と紫野グラウンド間の道路で地下鉄建設工事が始まったため、パレードコース変更。パレード実施日が体育祭から文化祭期間中に変更される。
1976	理想へのはばたき/先生を食え!(ジョーズ)/鴨沂の自由/無の表情(おとぎ話)/現代社会を斬る/ミグ25/自由について/青春	
1977	自然の美しさを考えよう/京都の街を見直そう!!/日本を美しく/自然と市電の理想教育について/自覚せよ/理想社会/高校生の意見をもっと尊重しよう/これが鴨沂高校だ/教師は政治活動をするな!	講堂アピール開始。
1978	高校生の証明/愛する心をもとう!/未来への遺産——自然/野生に帰れ/見つめなおせオレたちの軌跡/小学区制廃止反対!!/学歴偏重社会と京都の教育/自然を守ろう/現代っ子に人間味を!	『OUR SCHOOL OHKI』創刊
1979	これでいいのか?先生と生徒の実態!/悪のすすめ/熱中時代——青春編——/あなたも空を翔べる/新水滸伝/心にふれあいを/若者は今旅立つ/あのすばらしい農業をもう一度/原点に戻ろう	
1980	伝統行事を守ろう!/生きる——仰げば尊しわがティーチャー!/これでいいのか暴走族/このままでは耐えられない——三無主義の克服——/ゴミ地獄/人間同士が殺し合う時代は終わった/真の平和を目指して/二十一世紀のなしは食えるか/PEACE FOREVER!	

年	テーマ（注1）	関連年表
1981	ALL we are saying is GIVE PEACE A CHANCE/流れるな心の箱舟/ 難民/正直者がバカを見るのはゆるせない！/交通地獄——市電を 返せ——/死人に口なし——若いうちに言いたいことを言おう—— /通り魔殺人/何が日本を救えるか/私達の教科書を守ろう	
1982	ダイエット——ムダな規則が多すぎる/人類に二十一世紀はあるか/ /変身！私変わります/世の中食い放題——個性を持て——/打倒！ インスタント化時代/"気分はもう核戦争"——われら青春ど真中 ——/BAD NEWS（黒い予感）/俺たちは学校のあやつり人形ではな い!!/"長靴をはいた猫"～仰げばの原点を見直そう～	
1983	「夢をもとう」/"商業ペースに喰われるな"/"青春と自由"/"ゆが んだ世の中を見つめ直そう"/"ゴミをなくそう"——10個のゴミの うち5個ゴミ箱に捨てたらゴミは半分に減るんや——/"平和問題と 食糧危機"/"高校三原則を守ろう！"/"真の教育とは何か?"—— 明日の高校生活を探る——/"序章平和"	
1984	「自分の夢と将来について」/"ちょっといいですか?"/"何をして いるの?風を見ているだけさ"/"魂のぬけた人間になるな"——俺 たちはあやつり人形じゃない——/"核兵器反対"とプロレスについ て/"あの素晴らしい人間をもう一度——現代"青い鳥"伝説——/ /"犯罪者——マスコミ——"/"学歴社会をぶっとばそう!"	
1985	動け EARTH! ——ほんとうの"やる気"とは何だ——/高校三原 則を取り戻そう!～鴨沂を守ろう～/戦争と平和= ALL you need is PEACE !! =/"いじめ"について/学校に明るい未来を!/血のか よった教育を——先生と生徒がお互い理解しあおう——/大人にな る前に叫びたい!! ——きさまに俺たちの叫びが聞こえるか! —— GET THE GLORY !! /you can't make an omelet without breaking eggs ——卵を割らなくてはオムレツは作れない——"学歴社会を つぶせ"/飛びだせ青春を思い出せ	
1986	高校生の意見は、何故社会に取り入れられないのか/生きがいや りがい今青春の時をかけろ/"Take off"言いたい事を今いわなきゃいつ 言うの/管理社会をぶつつぶせ——自由と管理について——/アパ ルトヘイトをぶっとばせ——皮膚の色が何だ! ——/大人になっ ても忘れたくない・・・この瞳の輝きを! ——BE AS YOU ARE ——/夢のあるいい大人になろうね——夢は現代のビタミン剤—— /流行に流されるな/忘れていないか身近な自由を——自主性を持 とう——/自殺禁止・無気力追放	
1987	"創られた自由"——生徒部の管理主義に抵抗——/実験は成功し ましたか?/"このままでいいのか——!"(自分自身のあり方の探 求)/あなたは人にだけ優しさを求めていますか?——優しくあ るから強くあれ! ——(協調性を考える)/鴨沂の教育方針と現実 を考えよう 自主性×学校=社会/半熟レヴォリューション/無気 力人間、そこでストップ——君は学校生活を enjoy しているか? ——/LOOK Back Myself Now! ——今こそ自分を見つめ直せ! ——	
1988	「トム・ソーヤの冒険」——明日への地図を広げて——/"幸せは歩 いてこない だから歩いていくんだよ"/"Keep The Liberty"——自 由を守れ——/"今、本当に平和ですか?"——今私達は本当に平和 でしょうか、——/"自由"/"仰げば尊し"/"管理教育って"/"夢 と将来"/"School Revolution"	
1989	「夢を求めて」/"僕らは夢の海を航海する海賊だ!"/"このままで いいのか 校則!"/"夢を持ち続けよう!"/"BREAK THE PRESSURE"～圧力を打ち破ろう～/"友情"/"甦れ!心の中の主 人公たち!～人生における主体性を求めて～/"自由に生きて何が いけない!!"/"たまごのからをつきやぶれ"～あと戻りはもうでき ない～/"青い地球を守ろう!"～オゾン私達自身の問題～	

年	テーマ（注1）	関連年表
1990	見た目だけにごまかされるな!!～うまい!!けど・・・じ・つ・は・・・～/OH!今森林が・・・AH!もうやめてくれ/～他人の目ばかり気にするな～/『うちの京都をつぶさんといて』/でっかく生きろ!!～人類平和のために差別のわくを踏み越えよう～/「管理の波を跳ね返そう」/「夢をあきらめないで」/「たかがエリート、されどエリート」～学歴社会を考えよう～	
1991	Believe in our own Power!～自分の可能性を信じて～/見渡す限り車の波～交通規制を考えよう～/High School Boy's & Girl's Be Ambitious～高校生よ大志を抱け!!～/ボイするな AKIKAN!～ゴミ問題を通じてリサイクルを活発にしよう～/京都の景観について/Travelers to our Dreams～今日より素晴らしい明日を～/Speak out our Mind～本当の自由と充実を求めて～/君の人生これで決まり?! 理不尽なサバイバルゲーム——学歴——/私たちの心のふるさと 京都を守れ!～京都独自の景観や文化を求めて～	
1992	「人助けしてみいひんか、まじで、まじで。」～10円で尊い命が救われる——エチオピア難民救済～/未来予想図——リサイクル——まぜればゴミ 分ければ資源/学問だけが人生じゃない、17歳の地図～Seventeen's map/「気合い一発」/アオゲバノユクエ/LOOK FOR YOUR MIND～本当の自分を探そう～/AIDS～エイズなんてぶっつぶせ!!～/今やったら、何でもできる!	
1993	無抵抗な森林をいじめるな!～緑の破壊者たちへ～/『就職難』/天災は忘れた頃にやってくる。!!/『あきカン・あきビンのリサイクル』～カンカンカンカン アキカンカン ジュース飲んでも ゴミすんな!!～/『ラストダンス』……追悼/雲仙岳 ～雲仙の人々は今……～/学校が汚い～外見だけじゃあかんねん 中身のきれいな人間になろう～	
1994	学生のいじめと自殺/京都の景観/——教えて育てると書いて Education! ——『教育問題』/現代人/エイズ/「権力をぶっとばせ」～私達と権力～/「今の政治に思う」/THE HOLOCAUST	
1995	「都市化と災害」～大震災から学んだこと～/「戦後50年」～戦後世代の戦争責任～/「フランスの核実験再開反対!」/「学歴だけが人間じゃない!!」～今、学歴社会を問う～/「動物保護」～動物たちの声を聞け～/「将来について」～Boys and Girls Be Ambitious! 少年少女よ大志を抱け!～/「就職難」～理想の仕事に就きたい!～	
1996	「タバコの害について」/「消費税及び公共料金の値上げについて」/「抑げば改造計画」/「リサイクル」/「葉害エイズと人権」——これからの社会に望むこと——/「人権差別」/「自分らしく生きる」/「学校5日制完全実施に向けて～もっとゆとりある教育内容を～」	
1997	「鴨沂の自由」破壊禁止/「ゴミのリサイクル」/「葉っぱ令＝止めよう温暖化!光合成を手伝おう＝」/「鳥獣保護」/「教師と生徒の関係をもう一度見直そう」/「動物と人間の共存のために・・・」/「京都の景観を守ろう」	山車焼失事件
1998	自然～リサイクル～/Let's Shout!!～天使と悪魔を引き連れて～/「献血」/「子ども」/「日本文化」/夢 ～みんなの夢を叶えよう～/「動物保護のための森林保護」	
1999	『臓器提供』/「動物保護」/『ガイドライン』/『銃問題』/「地雷撲滅」/「難民救済」	
2000	「古都京都を守ろう」/「タバコ問題」/「教育問題」/「少年犯罪」/「動物愛護」/「コンビニ」	
2001	『人間として～医療訴訟問題～』/「児童虐待」/『理想の学校像』/『ドラッグ』/『マナー違反やめよう!!』/『未成年者の犯罪』	
2002	『世界中の子どものために』/「動物保護」/『環境問題（リサイクル）』/「食品問題」/『有事法制』/『ストリートチルドレン』	

年	テーマ（注1）	関連年表
2003	『美倫（みち）を外した人々』/『戦争とテロ』/『生類憐みの令』/『児童虐待』/『オゾン層の破壊』/『教育』	
2004	『ストリートチルドレン』/『少年犯罪』/『児童虐待』/『ドラッグ』/『戦争と平和』/『動物と人間のふれあい』	
2005	『環境問題（水質汚濁）』/『憲法9条』/『少年犯罪』/『動物愛護』/『歴史教科書問題』	
2006	『世界がもし100人の村だったら』/『タバコについて』/『動物愛護』/『ストリートチルドレン』/『もったいない!!!』/『違法駐車』	
2007	『憲法9条』/『ドラッグ』/『地球温暖化』/『動物愛護』/『ストリートチルドレン』	
2008	『食糧問題』/『人の命とは…』/『DV（ドメスティック・バイオレンス）』/『GUARD THE AFRICAN CHILDREN』/『地球温暖化〜ツバル〜』	4月、紫野グラウンドが「鴨沂高等学校の運動場として使用したいため」という理由で普通財産から教育財産へ所属替えされる。
2009	『マナー違反』/『動物愛護』/『ネットカフェ難民』/『世界の子どものために』/『タバコについて』	
2010	『W杯その熱き戦いの中で〜絶対に負けられない戦いがそこにはある。〜』/『音楽の大切さ』/『みつばち』/『マイケル・ジャクソン』/『動物虐待』/『尊厳死』	
2011	『音楽』/『リボン』/『アニメ・漫画文化』/『海賊』/『風評』	
2012	鴨沂の先生と生徒像/ボブ・マーリー/孤独死/AED/キラキラネーム/鴨沂の歴史、伝統〜将来へのメッセージ〜	6月、紫野グラウンドが新設の京都清明高校建設予定地となったことが報道される。10月、鴨沂高校校舎の全面改築方針が京都新聞にて報道される。
2013	ソーシャルネットワーク/鴨沂の自由/音楽/絶滅危惧種/流行/個性	仰げばパレード中止。4月、新入生から制服導入。9月、校舎改築に伴い仮校舎へ移転。11月、紫野グラウンドで新設の京都清明高校建設工事開始。
2014	コクリコ坂から〜私たちの校舎〜/鴨沂の問題〜校舎・グラウンド問題〜/鴨沂の伝統——今伝えたいこと——/憲法/鴨沂の自由〜Liberty fashion〜/崩れゆく生態系	
2015	京都の四季/つなげよう京と鴨沂の伝統/女性の人権/京の百鬼夜行	
2016		「仰げば尊し」廃止。生徒自治会が生徒会へと名称変更。PTAが京都府立高等学校PTA連合会へ加盟。
2018		新校舎完成、食堂がコンビニとなる。

注1：各年度、左からクラス番号順に掲載した。各クラスのテーマを（/）で分けている。1964年以前のテーマは不明。テーマ不明の年度は空白としている。

注2：管理課「紫野グラウンドの取得・使用経過について」によると、1961年に府有地（普通財産）であった紫野グラウンドの「運動場敷地造成」が始まり、1964年から「鴨沂高校グラウンドとして使用承認を得て使用開始」とあるが、『鴨沂新聞』には1962年から使用していたとする記事が複数存在する。

出典：生徒部・生徒自治会編、1979、『OUR SCHOOL OHKI 二号』113-114頁。生徒部・生徒自治会編、1982、『OUR SCHOOL OHKI 五号』45-55頁。生徒部・生徒自治会編、1983、『OUR SCHOOL OHKI 六号』23-39頁。生徒部・生徒自治会編、1984、『OUR SCHOOL OHKI 七号』39-54頁。生徒部・生徒自治会編、1985、『OUR SCHOOL OHKI 八号』51-61頁。生徒部・生徒自治会編、1986、『OUR SCHOOL OHKI 9号』61-74頁。生徒部・生徒自治会編、1987、『OUR SCHOOL OHKI 10号』90-97頁。生徒自治会編、1988、『OUR SCHOOL OHKI 11号』129-132頁。生徒自治会編、1989、『OUR SCHOOL OHKI 12号』110-124頁。生徒自治会編、1990、『OUR SCHOOL OHKI 13号』76-88頁。生徒自治会編、1991、『OUR SCHOOL OHKI 14号』67-78頁。生徒自治会編、1992、『OUR SCHOOL OHKI 15号』71-84頁。生徒自治会編、1994、『OUR SCHOOL OHKI 17号』60-64頁。生徒自治会編、2000、『OUR SCHOOL OHKI 23号』34-40頁。生徒自治会編、2003、『OUR SCHOOL OHKI 26号』57-63頁。生徒自治会編、2004、『OUR SCHOOL OHKI 27号』67-73頁。生徒自治会編、2005、『OUR SCHOOL OHKI 28号』70-76頁。生徒自治会編、2006、『OUR

SCHOOL OHKI 二十九号』66-71 頁。生徒自治会編, 2007, 『OUR SCHOOL OHKI 三〇号』59-65 頁。生徒自治会編, 2008, 『OUR SCHOOL OHKI 三十一号』60-65 頁。生徒自治会編, 2009, 『OUR SCHOOL OHKI 三十二号』47-51 頁。生徒自治会編, 2010, 『OUR SCHOOL OHKI 三十三号』43-48 頁。生徒自治会編, 2011, 『OUR SCHOOL OHKI 三十四号』67-72 頁。生徒自治会幹部会編, 2012, 『OUR SCHOOL OHKI 三十五号』78-83 頁。生徒自治会幹部会編, 2013, 『OUR SCHOOL OHKI 三十六号』60-68 頁。生徒自治会幹部会, 1994, 『1994 年 鴨沂高校学園祭プログラム』15-21 頁。生徒自治会幹部会, 1995, 『1995 年 鴨沂高校学園祭プログラム』19-24 頁。生徒自治会幹部会, 1996, 『1996 年 鴨沂高校学園祭プログラム』16-22 頁。生徒自治会幹部会, 1997, 『1997 年 鴨沂高校学園祭プログラム』14-23 頁。生徒自治会幹部会, 1998, 『1998 年 鴨沂高校学園祭プログラム』15-23 頁。生徒自治会幹部会, 2001, 『2001 年 鴨沂高校学園祭プログラム』16-21 頁。生徒自治会幹部会, 2012, 『2012 年 第 64 回鴨沂高校学園祭プログラム』15-19 頁。生徒自治会幹部会, 2013, 『2013 年 第 65 回鴨沂高校学園祭プログラム』16-19 頁。生徒自治会幹部会, 2014, 『2014 年 第 66 回鴨沂高校学園祭プログラム』14-17 頁。『20 回 学園祭』〔学園祭パンフレット〕12 頁。『“仰げば尊し”のテーマ』〔発行者, 発行年不明〕1-7 頁。教育庁管理部管理課長, 2008, 「公有財産の所属替えの手続きについて(依頼)0 教管第 316 号」〔京都府総務部府有資産活用課への公文書開示請求で筆者が確認〕。管理課「紫野グラウンドの取得・使用経過について」2012 年 1 月 13 日付〔京都府総務部府有資産活用課への公文書開示請求で筆者が確認〕。『昭和モダンイズム象徴 鴨沂高 学びや惜別 建て替えへ』『京都新聞』夕刊, 2012.10.25, 8 面。広報委員会, 2015, 『鴨沂 178 号 京都府立鴨沂高等学校 PTA 会報』6-7 頁。広報委員会, 2016, 『鴨沂 181 号 京都府立鴨沂高等学校 PTA 会報』6-7 頁。生徒自治会『鴨沂新聞 5 号』2000.9.5〔鴨沂新聞という名称だが, 新聞ではなく生徒自治会が学内向けに発行したプリント〕。鴨沂のほんをつくる会, 2004, 『鴨沂へようこそ』文理閣, 67-72 頁。『雨を衝いて運動会挙行』『鴨沂新聞』1949.12.19, 2 面。『第四回体育祭明日開く』『鴨沂新聞』1952.10.28, 4 面。『論説 先生が乗らない“仰げば尊し”』『鴨沂新聞』1957.9.24, 1 面。『体育祭 家庭的な雰囲気 団体競技に重点』『鴨沂新聞』1962.10.4, 2 面。『“仰げば” 三年理性の勝利 学園祭 父兄の参加例年の五倍に 講堂行事に人気』『鴨沂新聞』1964.10.26, 1 面。『京都の伝統高から消えた手作り食堂 コンビニに賛否』『産経新聞』2018.11.5, (最終閲覧日 2020 年 1 月 22 日, <https://www.sankei.com/west/news/181105/wst1811050003-n1.html>)。『京都の伝統高 老朽化で建て替え 47 年の名物食堂 姿消す』『産経新聞』夕刊, 2018.12.19, 4 面。

3 70 年安保と三無主義の狭間で

1970 年代の「仰げば」は, 1960 年代に引き続き政治的なテーマや戦争を扱うクラスが多く, 「メインテーマは政治的風刺物がほとんどで, アピール用のプリントを配りながら山車をかついで街中を歩い」⁵⁹⁾ だとする回想があることから, 学生運動の高揚を背景としたデモに近いものといえよう。身近な話題を扱っていても, 「市電を残そう」(1975), 「小学区制廃止反対」(1978) といった具体的要求が中心となっている。1975 年から, 烏丸通りの地下鉄建設工事開始を主な要因として, 「パレード」実施日が体育祭から文化祭期間となり, 「鴨沂高校を発着点として左京区の通学区を一まわりするコースに変更」⁶⁰⁾ された。1977 年には弁論方式の「講堂アピール」が開始⁶¹⁾ され, 「パレード」と二本立ての行事となる。「アピール」は講堂で全校生に対してクラス単位で主張をおこなう場であり, テーマに対する詳細な調査や文章力, 表現力が必要な行事となっていた。

1970 年代の前半と後半では, 「A」に関する当事

者の認識が大きく異なっていた。1971 年卒の小川達雄は, 「“鴨沂の自由” が鴨沂を鴨沂たらしめていたものとすれば, この“鴨沂の自由” を支えていたものの一つはアッセンブリーだろう (中略) 六月二三日, 日米安保条約が自動延長になったことに対し, アッセンブリー, 生徒集会, 生徒総会と議論を重ねてきた結果として, 生徒自治会は約六〇〇人の生徒の参加により, 自治会旗を先頭に府庁まで抗議のデモ行進を行った」⁶²⁾ としている。70 年安保の時代においても, 「A」が日常的な「デモクラシーのためのアーキテクチャ」として機能し, そこからデモや決議といった社会的な発信手段へと派生していった。但し, 鴨沂新聞局が 1971 年 1 月 14 日に 1, 2 年生の奇数クラスを対象におこなったアンケート⁶³⁾ で, 「アッセンブリーで発言したことがありますか」という問いに対し, 1 年生が「はい」6%, 「いいえ」94%, 2 年生「はい」28%, 「いいえ」72%と, 2 年間で約 7 割が発言をしていないという結果であったことは留意する必要がある。同時期に無気力, 無関心, 無責任の三無主義が目立ち始めており, 「パチンコ, マージャン, 授業をさぼる, 遅刻が多い。遅刻をしても何

とも感じない。授業中急に『ワアワア』言ったり机をたたいて大きい音を出したり」⁶⁴⁾といった現状への批判がみられる。この時期の京都大学への進学実績は、1976年度8名、1977年度3名、1978年度9名、1979年度3名⁶⁵⁾と低下しており、学力上位校から中堅校に移行していく過程であった。

1970年代後半の卒業生には、「毎日洋服をかえておしゃれをしたり、昼休みにアイスクャンディを食べることはしっかりと忘れないのに、毎日のホームルームはいつもドラドラ（中略）アッセンブリーの時間は、生徒の発言がきかれることは減多になく、三年生になれば進路指導の時間に変わっていた」⁶⁶⁾というように、学内で実際に行使される自由の内容への反省を述べる者も多い。1970年代には「A」の停滞が進み、1980年が近くなると「デモクラシーのためのアーキテクチャ」とは別目的の場にもなっていた。一方で、徐々に「A」が機能しなくなっていく中、「A」が担っていた社会問題の調査と議論の過程を「アピール」として制度化し、「パレード」で主張を社会へ発信する「仰げば」が、「デモクラシーのためのアーキテクチャ」として存在感を増していく。

4 教育実践への内包

1980年代の「仰げば」は、社会問題や政治的テーマを扱う場合においても、「交通地獄——市電を返せ——」（1981）や「高校三原則を守ろう」（1983）、「このままでいいのか校則！」（1989）といった身近な争点が増えてくる。準備段階の詳細が『OSO』に記載されている1982年、1983年⁶⁷⁾は、6月に仰げば実行委員会が立ち上がり、各クラスに山車係、アピール文係、衣装係が設置され、9月の本番まで3ヶ月かけて準備が進められた。『OSO』に掲載された「パレード」の写真からは、各クラスごとにテーマに沿った衣装を着て、10人以上が巨大な山車を担ぎ、数はそれほど多くないものの、「考え直せ教科書検定」（1981）、「高校三原則を守れ」（1983）といったプラカード⁶⁸⁾を掲げて行進している様子がうかがえる。プラカードには政治的要求の他、「自分の意思を持って！」（1985）、「地球を減ばすな」（1989）「自由に生きて

何がいけない」（1989）といった抽象的なもの⁶⁹⁾も多い。

1987年度仰げば実行委員会は「仰げば」を、「単なる仮装行列でなく、我々が18年間生きてきた中で、感じ、学び、思ったことを自らの意見として主張するための場」⁷⁰⁾と位置付けていた。要求を主張するデモンストレーションの性質を維持しつつ、「仰げば」をおこなう過程でテーマを選び議論した内容の発表や、高校生身の身近な不満や不安を言語化して市民へアピールするものへと徐々に変化していったといえる。一方で、同時期の日常的な「デモクラシーのためのアーキテクチャ」の活用状況は低調であった。1984年度の1年生「A」は、「今年も生徒の委員会が自主的に計画・活動したのではなく、すべて教師サイドで立案・実施」⁷¹⁾したとされ、2年生は、「先生による、先生の為のA委員会」⁷²⁾と総括されている。「銀座通り」は新入生向けメッセージで、「『鴨沂の自由』の象徴であった『銀座通り張り出し（自分の主張を、職員室前の掲示用黒板に張り出すこと。）』も今にも姿を消そうとしつつあります」⁷³⁾と形骸化が訴えられる状況であり、形骸化を認識したうえで引き継ぐべき価値を表現の自由に集約する言説が多くみられる。

この時代に「仰げば」が継続してきた要因の一つに、教員及び保護者、卒業生の理解と協力が挙げられる。1987年度の3年生担任会は「仰げば」について、「日頃のクラス活動の成果を問う形でのデモンストレーションとして位置づける」、「思考力、表現力をためす機会として、アピールを重視する」⁷⁴⁾としていた。テーマ設定からクラス内の役割決め、アピール文作成、山車作り、衣装作り、講堂アピールの練習等を3年生「A」やホームルーム、放課後にクラス単位でおこなうため、「仰げば」がクラス活動という教育の成果発表の場となっていた。こうした位置付けは、仮装行列が他校で廃止され、学生運動が過去のものとなった時代に、教員側が「仰げば」に対して、テーマを設定してクラスで議論し一定の結論をもって社会に発信することで、思考力・表現力・文章力を育てる教育実践の中に組み込み、学校の特色としてきた過程といえる。

保護者の「自由な校風」への理解も行事継続には欠かせない。PTAが1982年におこなった保護者向けアンケート⁷⁵⁾では、「鴨沂高校の生活指導についてどう思われますか？」という問いに、「今のままでよい」49.2%、「やや甘すぎる」24.1%、「甘すぎる」9.1%、「わからない」6.7%、「ややきびすぎる」6.5%、「きびすぎる」3.3%という順であり、現状でよいとする者が約半数であった。卒業生で保護者としても鴨沂高校に関わった井上博之は、『「自由、自由」とことあるごとに繰り返すのを聞くと自分の青春時代と重なり合い、画映ゆさと同時に頼もしさを感じ、PTAの各種会合では生徒側の応援団を買ってでた⁷⁶⁾とするように、「自由な校風」を良しとする卒業生が、保護者として校風の維持に寄与する事例もみられた。生徒自治会は生徒部と対立することもあり、井上のいう「生徒側の応援団」は、イエスマンとしての「学校側の応援団」や、教育制度・校内問題に触れない姿勢とは異なるものといえる。

1990年代の「仰げば」は、国政の政治的争点に対して特定の主張を伴うテーマは影を薄め、京都の景観やゴミ問題等、身近なテーマが目立つ。校風については、停滞する自治活動の現状を認識したうえで、自己批判を含めた主張がみられる。1992年には、「毎年やるのがアオゲバか。伝統守るのがアオゲバか。決められてやるのがアオゲバか。生徒が決めて生徒が行うというけれど、当の生徒は……。化粧はだめ、衣装は派手にならぬよう。そして鴨沂は自由です。アオゲバはその象徴です⁷⁷⁾」と、学内で進む管理の現状と当事者の無気力に対する皮肉をアピール文とするクラスも存在した。1996年の「仰げば改造計画」では、「毎年、先生にいわれて同じことをやらされる。つまり強制されるということは、鴨沂の自由を奪われるということにつながるのでは⁷⁸⁾」として、「仰げば」を教員から強制されたものと位置付けている。こうしたアピールからは、この時期の「仰げば」は既に「伝統行事」として定着していたものの、「デモクラシーのためのアーキテクチャ」としては機能不全を起こしており、「仰げば」を実質的に維持していたのは教員であったと理解できる。しかし、「仰げば」を「仰げば」で批判し、『OSO』へ掲載す

る自由があった。

1997年から、それまで存在した二類理数系と商業科が募集停止となる。これに対して校長に対する公開質問状⁷⁹⁾が出され、「銀座通り」に掲示⁸⁰⁾される。その後「A」が開かれ⁸¹⁾、「このアッセンブリーは、生徒の疑問や不満を校長先生に聞くというものでした。しかし、校長先生からは、私達の納得のいく答えは返ってきませんでした⁸²⁾」と総括されている。これ以降、高校生が自ら企画・立案する「生徒A」がおこなわれた形跡はなく⁸³⁾、日常的な「デモクラシーのためのアーキテクチャ」は形式だけが残された。また、進学実績は低下の一途であり、1998年度の国公立大学合格者は現役4人、浪人2人⁸⁴⁾となっていた。

2000年代に入っても、「自由に言いたいことが言い合える、発言・表現の自由が保障されていること⁸⁵⁾」が「鴨沂の自由」だとして、「自由な校風」の理念は引き継がれていた。「仰げば」は、「アピール」と「パレード」の二本立ての形式が維持されていたが、テーマには、タバコ、少年犯罪といった身近な問題や、環境問題、発展途上国の子どもに関する問題等を調べ、まとめて発表する内容が目立つようになる。「有事法制」(2002)、「歴史教科書問題」(2005)、「憲法9条」(2005, 2007)といった政治的争点が扱われることもあったが、その数は少ない。クラス活動の性質を付与されながらも高校生の主張の場として維持されてきた「仰げば」が、調べ学習の成果発表の場へと変化してきたといえる。2000年代の進学実績は向上せず、国公立大学の合格者は毎年5人程度⁸⁶⁾で推移していた。

5 校舎改築と校風改革

2018年に完了した校舎改築は、当初、「壁や柱が少なく、補修で耐震強度を上げるのは難しい(管理課)」⁸⁷⁾とされていた。校舎の保存を求める運動の高まり⁸⁸⁾や、京都府教育委員会が調査を依頼し、「撤去して更地とし建て替える、という選択肢は想定し難い⁸⁹⁾」と結論付けた報告書を、「教育委員会の会合や府議会へ示さず、老朽化で耐震改修は不可能と説明⁹⁰⁾」していた意思決定過程が問題視さ

れたこともあり、改築工事基本・実施設計の公募型技術提案最終審査では、本館正面棟及び図書館棟を耐震改修する部分保存案⁹¹⁾を提案した株式会社梓設計大阪支社⁹²⁾が選ばれた。一方で、鴨沂高校同窓会は校舎の早期全面改築に賛成の方針であった。2013年7月31日に京都府知事及び京都府教育委員会委員長宛で提出された要望書には、「校舎の全面改築が遅滞なく円滑に工事が進行して計画通りに落成し、平成28年度秋季より耐震性及び防火性能を備えた新校舎で授業を再開して、本校が所有する文化遺産を保存・継承してさらに拡充しつつ、新生鴨沂高校としての教育目標が達成できることを強く要望します」⁹³⁾とある。ここでは、新たな教育目標の達成を望んでおり、校風改革の推進を要望するものでもあった。その背景には、校舎改築と校風改革を起爆剤とした「名門校の復活」を期待する卒業生の心理があった。2012年度まで校長であった山岸忠は、以下のように同窓会員へ改革への理解を求めている。

この時期を逃すと本校の将来に大きな禍根を残すと考え、関係の皆様へ御協力をお願いし、様々な改革に着手した次第です。制服導入もその改革の一つでありました。(中略)制服導入後、学校全体で他の様々な改革が一層進み、将来の発展に大きな希望を抱かせる状況になっており、私も鴨沂高校の今後に大いに期待する次第であります。

具体的に鴨沂高校の将来に期待することは、名実ともに「名門校の復活」であります⁹⁴⁾

校舎改築と同時期におこなわれた校風改革については、当時、在籍していた卒業生1名、元教員2名⁹⁵⁾に対し、筆者がインタビュー調査をおこなった。事実経過としては、2013年の新入生から制服が導入され、同年夏に校舎改築のため仮校舎へ移転する。2013年の「仰げば」は「パレード」が中止となり、「アピール」と「ファッションショー」に変更された。その理由として鴨沂高校元教員のCは、当初は「パレード」をする予定であったとしながらも、「警察が許可しなかったというのと、校舎の正門の前の道が狭い、山車が通ったら邪魔

になる、という物理的な理由があった」と述べている。また、同時期に「自由な校風」に対する教員の認識が変化してきており、「ファッションショー」の際、あるクラスの制服の扱い⁹⁶⁾について学内から苦情があったとしている。

制服をぐちゃぐちゃとして、「制服は着崩すもんだー」とか言ったんやな。その後、「あれは、あかんのちゃいますか」と言われたから、「何ですか」と聞いたら、「学校の方針に従ってない」と。でも「それは表現の自由でしょ」言うたら、そしたら、愛知トリエンナーレと一緒にやけど、「学校がお金出してるのに、学校の方針と違う事やっていいのか」と言うから、「それはいいでしょ。表現の自由でしょ」と言って全くとりあわへなかった。

Cは、鴨沂高校でこういうことを言われたのが初めてだとして、『「学校の方針と違うことを文化祭で言うのはだめ』と言うのは、もう自主活動という考えが無いんやね。そういう教員や管理職が増えてしまった』と述べている。2013年の「仰げば」には、制服導入や「銀座通り」を扱ったクラスがあった。「アピール」では、「今年度の1年生から制服が導入され、私服という一つの自由が失われつつあります。私服は『自分』を表現する上でとても大事な要素であり、それこそが鴨沂の象徴であり、『自由な校風』を生み出していたのではないのでしょうか」⁹⁷⁾とし、クラス展示では、「仮移転中のこの校舎には銀座通りにあたるものがありません。銀座通りは生徒の表現の自由つまり鴨沂の自由を体現したものだ和我々は考えています。よって、銀座通りを復活させるべきだと思います」⁹⁸⁾と主張している。だが、仮校舎移転前の「銀座通り」は、制度として存在していたものの、その利用は少なかったとされる。鴨沂高校元教員のBは、「あんまり活用はされてなかった気がするけど、でも、何かの結果とかは出したり貼ったりしてへんかったかな。当たり障りのない何か」としている。「デモクラシーのためのアーキテクチャ」としては形骸化していたが、それが必要であるとの認識は引き継がれていた。2014年の「仰げば」⁹⁹⁾

では、6クラス中4クラスが校舎改築や紫野グラウンド廃止問題¹⁰⁰⁾、「自由な校風」といった改革の対象を扱っている。この世代は、校舎改築計画が公開される前に入学した私服最後の世代であったことから、学内問題への関心の高さがうかがえる。2013年に入学した制服最初の世代は、3年生時の2015年に「仰げば」をおこなっている。この世代を最後に「仰げば」は廃止¹⁰¹⁾された。2016年に生徒自治会は生徒会へと名称変更¹⁰²⁾され、PTAは京都府立高等学校PTA連合会へ加盟¹⁰³⁾している。これら一連の改革を象徴する言葉として、「鴨沂は生まれ変わります」¹⁰⁴⁾というキャッチコピーが使われている。

6 お わ り に

本稿では、鴨沂高校に存在した「仰げば」、「A」、「銀座通り」を「デモクラシーのためのアーキテクチャ」と位置付け、「自由な校風」という教育実践の変容をみてきた。鴨沂高校が誕生した直後から表現の自由が重視され、「A」、「銀座通り」が日常的な「デモクラシーのためのアーキテクチャ」として機能していたが、この時期の「仰げば」は仮装行列の一種であった。1950年代には全国的にも優れた進学実績を有し、前身校の由来も含めて「名門校」と扱われていたが、校舎の破壊行為や自治活動への無関心等が問題視されており、美化された言説と実態は異なるとの指摘もある。

1960年代には「仰げば」が市中パレードとなり、視線が市民へ向くことで、政治的なテーマが増えるようになる。1970年代には「A」の形骸化が目立つようになるが、「仰げば」をテーマ内容の議論を中心とした「アピール」と市民へ向けた社会的発信の「パレード」に分けることで、年に1度のハレの日の「デモクラシーのためのアーキテクチャ」としての性質を強めていく。1980年代の「仰げば」は、教員側からも「仰げば」に向けた日々のクラス活動の教育成果を発表する場と位置づけられ、学校の特色として組み込まれていた。1990年代には「仰げば」を教員から強制されたものとする「アピール」がある。学校行事を批判する自由を行使しており、自治の停滞が危惧されな

がらも「デモクラシーのためのアーキテクチャ」をめぐるデモクラシーが機能していたといえる。しかし、「A」や「銀座通り」という日常的な議論を土台として訓練し、3年生時に社会的発信の場としての「仰げば」に至る「デモクラシーのためのアーキテクチャ」の維持は簡単なものではなく、2000年以降の「仰げば」では調べ学習の成果発表に近いテーマが多くみられるようになる。高校生が主体となる「A」は1996年以降開かれておらず、実質的に「仰げば」や「自由な校風」の形式を守っていたのは教員であったといえよう。校舎改築と前後して2010年代に学内で進められた校風改革に対し、「自由な校風」の継承や「銀座通り」の復活を訴えた高校生もいたが、これまで「自由な校風」を享受してきた世代である同窓会は、自由を後輩に継承する意思を持たず、進学実績の向上や「名門校の復活」を優先した。校風改革によって、「デモクラシーのためのアーキテクチャ」としての行事や制度は姿を消した。

鴨沂高校に存在した「仰げば」、「A」、「銀座通り」は、表現の自由を保障したうえで自らテーマを設定し、考え、議論し、主張するというプロセスが組み込まれていることから、主権者たる市民を育てる意欲的な教育実践であったといえる。こうした取り組みは『鴨沂新聞』や『OSO』で、教員の支援を得ながらも、高校生自身によって記録された。これは、自らが文化を創り出し、継承する努力が続けられていたものであった。本稿でみてきた鴨沂高校における「自由な校風」は、「国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく新しい主権者像」¹⁰⁵⁾が提起され、主権者教育が推進される現代においてこそ、再評価されるべき取り組みであったのではないだろうか。

【謝辞】 鴨沂高校の卒業生・保護者・元教職員等、多くの方にご協力頂いた。これらの協力が無ければ研究を遂行することは困難であった。厚く御礼を申し上げる。

注

- 1) 本館1階の職員室前廊下のことを指す。掲示板にビラや決議文等を貼ることができた。
- 2) 1951年改訂版の「学習指導要領」に定められた特別教育活動としての生徒集会に該当するものであった。『OSO』では、学年ごとに週1時限分開催可能で、「身のまわりのことや人間の生き方や社会問題に目を向け、理解し、自主的判断を養う」ことが目的とされている。内容は、討論、講演、映画鑑賞、その他がある。文部省、1951、『昭和二十六年度改訂版 学習指導要領一般編（試案）』明治図書出版、34-37頁。「アッセンブリー（A）の紹介」生徒部・生徒自治会編、1979、『OUR SCHOOL OHKI 二号』20頁。
- 3) 1949年の発足当初は生徒会であったが、1950年から自治会となる。1954年から『鴨沂新聞』に、生徒自治会役員を「幹部会」とする記事がみられだし、それ以降「幹部会」と呼ばれる。「生徒會新發足す」『鴨沂新聞』1949.2.13、1面。「生徒會から自治會へ」『鴨沂新聞』1950.5.16、1面。「新役員決定す」『鴨沂新聞』1954.12.4、1面。
- 4) 本稿で引用する『京一中新聞』『鴨沂新聞』は、全て『鴨沂新聞復刻版』に収録されたものを使用している。『鴨沂新聞復刻版』に頁番号が記載されていないため、各新聞の発行年月日を記載した。鴨沂新聞復刻版を作る会編、1998、『鴨沂新聞復刻版』。
- 5) 大江周道『『OUR SCHOOL OHKI』（学園誌）を発刊することになった経緯について』鴨沂高校旧教職員の会事務局、1993、『鴨沂の歩み』113頁。
- 6) 勤評闘争、旭川学テ訴訟、家永教科書裁判等の研究は多くの蓄積がある。
- 7) 太田周二郎、1995、『高校生のゆううつ——規則と自由のはざまにて』法律文化社、77-78頁。
- 8) 西原博史「教師の〈教育の自由〉と子どもの思想・良心の自由」広田照幸責任編集、2009、『自由への問い5 教育 せめぎあう「教える」「学ぶ」「育てる」』岩波書店、133頁。
- 9) 小林哲夫、2012、「高校紛争1969-1970「闘争」の歴史と証言」中央公論社、115-119頁。
- 10) 成原慧、2016、『表現の自由とアーキテクチャ』勁草書房、93頁。
- 11) Lawrence, Lessig, 2006, *CODE Version 2.0*, New York: Basic Books, 123.
(山形浩生訳、2007、『CODE VERSION 2.0』翔泳社、174頁。)
- 12) George, Ritzer, [2004] 2008, *The McDonaldization of Society* 5, 5th ed, California: Pine Forge Press, 125.
- 13) 田村哲樹、2017、『熟議民主主義の困難』ナカニシヤ出版、122頁。
- 14) 田村哲樹「デモクラシーのためのアーキテクチャ、アーキテクチャをめぐるデモクラシー」宇野重規・田村哲樹・山崎望、2011、『デモクラシーの擁護——再帰化する現代社会で』ナカニシヤ出版、204頁。
- 15) 船山万里子『『熟議民主主義』論と教育実践とのつながりを探る』全国高校生活指導研究協議会、2013、『高校生活指導 195号（春季号）』107頁。
- 16) 主権者教育の内容については、日本弁護士連合会から、「政治制度や選挙制度を知識として学習することのみが目指され、さらには、それらの社会制度に無批判に従おうとする意欲や態度を規範意識や公共心として教え込むような教育となってしまうのか」とする指摘もある。日本弁護士連合会、2016、「あるべき主権者教育の推進を求める宣言——民主的な社会を担う資質を育むために——」7頁。
- 17) 但し、久保田貢は、主権者を育てる教育論は1950年代から存在しており、主権者教育が新しい概念ではないと指摘している。久保田貢「『主権者教育論』再考——その歴史と現在——」日本教育学会、2017、『教育学研究 84巻2号』133-136頁。
- 18) 総務省・文部科学省、2015、『私たちが拓く日本の未来（教師用指導資料）』35-71頁。
- 19) 男女共学、小学区制、総合制を柱とするもの。
- 20) 経緯は以下を参照。「府立高等学校の設置および旧中学校廃止の通謀 昭二三、五、七 府広報」京都府立総合資料館編、1972、『京都府百年の資料五教育編』710-712頁。「30 新生高等学校整理状況」京都府教育研究所、1978、『戦後京都教育小史』41-42頁。
- 21) 田代善信「目に浮かぶ創制期の生徒諸君」、鴨沂高校旧教職員の会事務局、1993、『鴨沂の歩み』40頁。
- 22) 鈴木集蔵「座談会 鴨沂の「自由と自治」を語る」、鴨沂高校旧教職員の会、1999、『鴨沂の歩み 4号』59頁。
- 23) 「新制高校では抜群 新制京大入試終る」『鴨沂新聞』1949.7.20、1面。
- 24) 「現役合格者一段と減少」『鴨沂新聞』1956.5.16、2面。
- 25) 「勉強は何のために 今年の進学状況をどうみる」『鴨沂新聞』1967.5.19、1面。
- 26) 谷口安平「二度目の変革期を迎えた鴨沂に寄せる期待」、鴨沂高校旧教職員の会事務局、1993、『鴨沂の歩み』53頁。
- 27) 山崎正史「ジレンマ組の鴨沂高校の頃」、鴨沂高校旧教職員の会事務局、1993、『鴨沂の歩み』74頁。
- 28) 山本達哉「私の鴨沂における三年半」、鴨沂高校旧教職員の会、1995、『鴨沂の歩み 2号』36頁。
- 29) 「警察テロ、学園を侵食!」『鴨沂新聞』1952.9.18、1面。
- 30) 「火炎瓶事件第一回公判開く」『鴨沂新聞』1952.10.28、1面。
- 31) 「誰が壊した!! 責任ある行動を」『鴨沂新聞』1960.2.18、3面。
- 32) 「暴力事件頻発する 彼等を正しい道へ」『鴨沂新聞』1954.12.4、2面。
- 33) 「校風乱すカンニング 監督者の怠慢も一因」『鴨沂新聞』1955.4.21、1面。
- 34) 「書籍紛失に悲鳴 生徒の良心疑う図書館」『鴨沂新聞』1951.2.13、1面。

- 35) 「不慮事續発 脅迫・喫煙・飲酒」『鴨沂新聞』1955.12.23, 1面.
- 36) 有馬貞一「荒廃した校舎の復旧」『鴨沂新聞』1953.12.4, 2面.
- 37) 「論説 出欠カードの反省」『鴨沂新聞』1956.11.20, 2面.
- 38) 「騒がしすぎるアセンブリーの現状」『鴨沂新聞』1960.12.14, 2面.
- 39) 「論説 鴨沂の自由を認識しよう」『鴨沂新聞』1959.7.11, 1面.
- 40) 「呼物! 仮装行列」『京一中新聞』1947.12, 2面.
- 41) 1948年10月8日に女学校としての鴨沂高校における運動会で、「雨天のため運動会中止になった洛北高からの仮相行列に観声(ママ)を挙げた」とされる。「鴨沂の歴史にピリオド さよなら文化祭 思い出宿して終る」『鴨沂新聞』1948.10.12, 2面.
- 42) 「雨を衝いて運動会挙行 全競技に若人の熱燃ゆ」『鴨沂新聞』1949.12.19, 2面.
- 43) 京都御苑内の運動場。1961年まではこの場所で開催されていた.
- 44) 鴨沂高校旧教職員の会事務局, 1993, 『鴨沂の歩み』107頁.
- 45) 大分県立大分上野丘高等学校上野丘「百年史」編集委員会編, 1986, 『上野丘「百年史」』383-384頁.
- 46) 大高七十年誌編集委員会, 1972, 『大高七十年誌』329-330頁.
- 47) 「論説 先生が乗らない“仰げば尊し”」『鴨沂新聞』1957.9.24, 1面.
- 48) 「「仰げば尊し」を拒否 三年生担任会議で」『鴨沂新聞』1957.9.24, 1面.
- 49) 「「仰げば尊し」成功す 来年も実施は決定的」『鴨沂新聞 号外』1957.10.17.
- 50) 「担任乗らぬ仰げば 市中パレード校長が横やり」『鴨沂新聞』1961.10.5, 1面.
- 51) 坂本篤代「回顧」, 生徒部・生徒自治会編, 1982, 『OUR SCHOOL OHKI 五号』135頁.
- 52) 「小さくなる“仰げば”」『鴨沂新聞』1962.10.4, 2面.
- 53) 「学園祭“仰げば” 三年理性の勝利」『鴨沂新聞』1964.10.26, 1面.
- 54) 「昭和三十九年度 答辞」, 鴨沂高校旧教職員の会, 1999, 『鴨沂の歩み 4号』106頁.
- 55) 記事中では触れられていないが、ベトナム戦争での北爆開始を前提としたものと考えられる。「「仰げば」内容の向上目立つ」『鴨沂新聞』1965.12.11, 1面.
- 56) 前掲(45), 444頁.
- 57) 谷口正和「鴨沂高校の思い出」, 鴨沂高校旧教職員の会, 1996, 『鴨沂の歩み 3号』39頁.
- 58) 磯谷加壽子「私の高校時代」, 鴨沂高校旧教職員の会, 1996, 『鴨沂の歩み 3号』43-44頁.
- 59) 西納由美「みあげれば」, 鴨沂高校旧教職員の会事務局, 1993, 『鴨沂の歩み』82頁.
- 60) 生徒自治会編, 1988, 『OUR SCHOOL OHKI 11号』128頁.
- 61) 弁論方式の他, 寸劇方式を採用する年度もあった。同上, 129頁.
- 62) 小川達雄「鴨沂の自由」, 鴨沂高校旧教職員の会事務局, 1993, 『鴨沂の歩み』81頁。但し, 『鴨沂新聞』の記事には, 参加者は「約五〇〇名の自治会員」との記述がある。「統一デモ」に五百名参加」『鴨沂新聞』1970.7.20, 1面.
- 63) 「アセンブリー 生徒の考え・学校の考え」『鴨沂新聞』1971.2.8, 2面.
- 64) 「論説 暴力事件を教訓にして鴨沂の自由を守ろう」『鴨沂新聞』1968.1.26, 1面.
- 65) いずれの年度も現役と浪人を足した数字となっている。「最近の大学・短大合格状況」生徒部・生徒自治会編, 1981, 『OUR SCHOOL OHKI 4号』137頁.
- 66) 林るみ「十年前の鴨沂を思い出して」, 鴨沂高校旧教職員の会事務局, 1993, 『鴨沂の歩み』92頁.
- 67) 生徒部・生徒自治会編, 1983, 『OUR SCHOOL OHKI 六号』23-26頁。生徒部・生徒自治会編, 1984, 『OUR SCHOOL OHKI 七号』39-42頁.
- 68) 生徒部・生徒自治会編, 1982, 『OUR SCHOOL OHKI 五号』55頁。生徒部・生徒自治会編, 1984, 『OUR SCHOOL OHKI 七号』49-50頁.
- 69) 生徒部・生徒自治会編, 1985, 『OUR SCHOOL OHKI 八号』61頁。生徒自治会編, 1990, 『OUR SCHOOL OHKI 十三号』82-85頁.
- 70) 京都府立鴨沂高校編, 1988, 『パリッと仰げば 87学園祭行事』13頁.
- 71) 「一年アセンブリー委員会の活動」, 1985, 『OUR SCHOOL OHKI 八号』26頁.
- 72) 「二年生, A委員会の実態」, 1985, 『OUR SCHOOL OHKI 八号』26頁.
- 73) 生徒部・生徒自治会編, 1983, 『OUR SCHOOL OHKI 六号』4頁.
- 74) 京都府立鴨沂高校編, 1988, 『パリッと仰げば 87学園祭行事』11頁.
- 75) 京都府立鴨沂高等学校PTA, 1982, 『こう思う・こうしてほしい——親のねがい 学校, PTA, 家庭教育に関するアンケートのまとめ』2頁, 20頁.
- 76) 井上博之「鴨沂スピリッツを21世紀の世界へ」鴨沂高校旧教職員の会, 1996, 『鴨沂の歩み 3号』42頁.
- 77) 「アオゲバノユクエ」生徒自治会編, 1993, 『OUR SCHOOL OHKI 十六号』78頁.
- 78) 生徒自治会, 1996, 『1996年 鴨沂高校学園祭プログラム』19頁.
- 79) 京都府立鴨沂高等学校生徒自治会幹部会・名無しの権兵衛連合'96「普通科Ⅱ類理数系及び商業科の募集停止に関する公開質問状 平成八年十月十八日」.
- 80) 幹部会, 「緊急報告! H8.10.18」.
- 81) 「留年などへの対応で質問 鴨沂高で全校集会」『京都新聞』朝刊, 1996.12.19, 22面.
- 82) 生徒自治会編, 1998, 『OUR SCHOOL OHKI 二十一号』43頁.
- 83) 1999年度の『OSO』において, 「生徒Aは, 一九九六年の, Ⅱ類理数・商業科の募集停止につ

- いての質問会アッセンブリーを最後に、それ以来一度もおこなわれていません」とされ、それ以降、毎年同様の記載がある。『OSO 三十六号』まで確認。生徒自治会編, 2000, 『OUR SCHOOL OHKI 二十三号』8 頁。
- 84) 京都府立鴨沂高等学校 PTA 地域委員会, 『1999 年度地域懇談会のまとめ』20 頁。
 - 85) 生徒自治会編, 2003, 『OUR SCHOOL OHKI 二十六号』70-72 頁。
 - 86) 2005 年の国公立大学合格者数は現役 1 名, 浪人 3 名の計 4 名であった。京都大学合格者はいない。進路部, 2005, 『進路の手引き』55 頁。
 - 87) 「昭和モダニズム象徴 鴨沂高 学びや惜別」『京都新聞』夕刊, 2012.10.25, 8 面。
 - 88) 「鴨沂高校の校舎を考える会」による署名の他, 一般社団法人日本建築学会近畿支部近代建築部会主査笠原一人「京都府立鴨沂高等学校校舎についての見解」(2013 年 7 月 11 日付)等の要望書が提出されている。保存を求める動きを取り上げた記事として, 以下, 「八重ゆかり 学舎「保存を」」『産経新聞』大阪夕刊, 2013.11.20, 1 面。
 - 89) 建築まちなみ研究会, 2012, 『京都府立鴨沂高等学校既存建築調査報告書』54 頁。
 - 90) 「鴨沂高 校舎建て替え 専門家「文化財的価値, 保存を」府教委提言公表せず 改修, 重ねて否定」『京都新聞』朝刊, 2013.7.6, 29 面。
 - 91) F 社(委託候補者: (株) 梓設計大阪支社)「提案課題 2 業務実施方針説明書」2 頁。
 - 92) 管理課「府立鴨沂高等学校校舎等改築工事基本・実施設計の委託候補者特定について」, 2013 年 11 月 15 日付。
 - 93) 京都府立鴨沂高等学校同窓会「京都府立鴨沂高等学校校舎改築に向けた要望書」2013 年 7 月 31 日付。
 - 94) 山岸忠「今後の鴨沂高校に期待して」京都府立鴨沂高等学校同窓会, 2014, 『鴨沂高校同窓会報 10 号』4 頁。
 - 95) 2010 年から 2018 年の間に在籍していた卒業生, 保護者, 元教職員で面識のある者に協力を依頼し, スノーボールサンプリングで候補者を増やした。その中から許諾を得た卒業生 A, 元教員 B, C にインタビュー調査をおこなった。この他に, 卒業生 5 名, 保護者 4 名, 元教職員 6 名から資料提供を受けている。インタビューは全て半構造化形式で, A に対しては 2019 年 10 月 26 日に, B, C に対しては 2019 年 11 月 30 日に筆者がおこなった。聞き取りの主な内容は, 在籍年度の校風に関する動向, 「自由な校風」について, 校則について, 「仰げば尊し」の廃止について, 「A」や「銀座通り」について等である。個人の特定を避けるため, 一部表現を変更している。
 - 96) 制服を扱っているが, 私服の学年である。
 - 97) 生徒自治会幹部会, 2013, 『2013 年 第 65 回鴨沂高校学園祭プログラム』17 頁。
 - 98) 3 年 2 組「～銀座通りについて～」, 第 65 回文化祭の 3 年 2 組クラス展示より, 2013 年 9 月 11 日に卒業生として文化祭を見学した筆者が確認。この世代は, 3 年生の夏に仮校舎へ移転したが, 改築工事の遅れや当事者の要望もあり, 卒業式を旧校舎でおこなっている。経緯を報道した記事として以下, 「旧校舎で最後の別れ」『産経新聞』大阪夕刊, 2014.2.28, 11 面, 「旧校舎で卒業 願い実現」『京都新聞』夕刊, 2014.2.26, 1 面。
 - 99) 生徒自治会幹部会, 2014, 『2014 年 第 66 回鴨沂高校学園祭プログラム』15-17 頁。
 - 100) 鴨沂高校が体育の授業やクラブ活動で利用してきた紫野グラウンドが新設の京都府立清明高等学校建設地となった問題で, 高校生や保護者から紫野グラウンド廃止を批判する声もあった。紫野グラウンド廃止を取材した記事として, 以下, 「鴨沂高グラウンドに校舎建設 生徒が“直訴”『部活練習場返して』府教委 代替地なく着工」『京都新聞』朝刊, 2013.12.10, 34 面, 「グラウンドに新設校 鴨沂高 OB ら陳情書」『京都新聞』朝刊, 2014.2.1, 31 面。
 - 101) 広報委員会, 2015, 『鴨沂 178 号 京都府立鴨沂高等学校 PTA 会報』6-7 頁。広報委員会, 2016, 『鴨沂 181 号 京都府立鴨沂高等学校 PTA 会報』2-7 頁。
 - 102) 2016 年 2 月に「生徒自治会会則の名称変更等について」とする文書が各クラスに貼られ, 「生徒自治会→生徒会」と記載されている。2016 年度に在籍していた卒業生から筆者への情報提供による。
 - 103) 広報委員会, 2016, 『鴨沂 180 号 京都府立鴨沂高等学校 PTA 会報』8 頁。
 - 104) 『京都府立鴨沂高等学校 平成 26 年度学校紹介 全日制普通科』。
 - 105) 常時啓発事業のあり方等研究会「「常時啓発事業のあり方等研究会」最終報告書 平成 23 年 12 月」5 頁。

Liberty tradition in schools as an educational practice
—— *Aogeba Toutoshi* performed by Ohki High School in Kyoto Prefecture ——

Takeaki TSUDA

Graduate School of Human and Environmental Studies,
Kyoto University, Kyoto 606-8501 Japan

Summary The aim of this paper is to examine the significance and limitations of bringing the liberty tradition in schools as an educational practice, specifically in the school event *Aogeba Toutoshi*, performed at Ohki High School, Kyoto. After World War II, freedom of expression was emphasized in schools, and from the 1960s, specifically, *Aogeba Toutoshi* changed from a masquerade ceremony to a demonstration. The tradition was positioned as an educational practice in the 1980s but was abolished in the 2010s because of school building remodeling and other changes in school traditions. In the present age of sovereign education, the practice can be re-evaluated as an ambitious school tradition with the aim to foster free and independent citizens.